

# オレハング通信 Vol.③

佐々木まゆみ市議会活動レポート

2013年3月発行

発行元／仙台市議会公明党市議団 仙台市議会議員佐々木まゆみ

仙台市宮城野区幸町2-21-11 TEL022-707-7462 メールアドレス sasaki@sendai-komei.jp

## 「心の復興」へ！ あの日を忘れず、さらに全力で取り組んで 参ります。

あの甚大な東日本大震災から2年。復興が未だ本格的に進んでいない地域もまだ見受けられます。

これからの課題は「心の復興」・「人生の復興」、そして、3.11を風化させない事です。

10年後20年後、新しく生まれ変わった街並みや歴史を未来の子ども達に伝えること、震災の記憶を後世に伝えることが、経験した私たち大人の責任です。

仙台は5年で復興をすると宣言し折り返しの年が今年です。2月14日から第1回定例会もスタート。1ヶ月間、頑張ります。



### ■小学校の解体、整備



若林区荒浜小学校にて。校舎は残し、体育館とプールの解体が決まり、2月17日にお別れ会がありました。

### ■動物公園トイレ表示を充実



昨年9月の特別委員会で、八木山動物公園のトイレ表示充実を求めたところ、上記の表示が設置されました。

### ■優先席に「ハートプラスマーク」を



仙台地下鉄や市バスの優先席にハートプラスマークが加わりました。内部障がいの方もご利用できます。

### ■東北 議員研修会に参加



2月4日東北・新市議会議員研修会に参加。宮城大学の三橋教授の講演のあと、グループに分かれ、経済・観光・防災・広域連携等について意見交換をしました。

# 生活者の視点から暮らしに密着した課題を提案

平成24年9月13日

## 震災の風化防止のために 新たな施策を

【佐々木】

最先端技術を駆使した南蒲生の新浄化センターが完成すれば、日本のみならず、世界各国からの視察が予想される。来訪される方に震災の爪痕を残す展示コーナーや映像コーナーなど、次世代に継承できる場の設置を求めるがどうか。

【吉川誠一建設局長】

当浄化センターは、復旧と併せて、管渠やポンプ場も含めた被災状況の写真や映像、被災物、復興の過程などを展示するスペースの設置について検討している。

【佐々木】

「地震が来たら逃げる」この教訓を、確実に迅速に行動に移すためにも、今、自分がどのくらいの高さの所にいるのか確認することにより避難の経路確認もできる。海拔表示を、仙台市東部地域における幹線道路や避難施設、公園に設置すべきと思うがどうか。

【高橋文雄消防局長】

津波からの避難については、避難場所の確保や避難誘導も重要であり、ご提案の海拔表示についても有用な検討課題の一つと認識している。現在、有識者による検討委員会において、津波避難施設の整備を中心に検討が行われているので、海拔表示のあり方についても検討していく。

## コミュニティバスについて

【佐々木】

今後のコミュニティバスの考え方として、地域と民間そして行政の三者連携による取り組みが必要。まずは地域でコミュニティバス運営協議会を立ち上げ、その運行方法は民間委託方式や自前方式で



実施するなどの運行実施計画や、運行に係る予算計画も立案することで実現に向け進めていく必要があると考えるがどうか。

【小島博仁都市整備局長】

協議会の立ち上げや、協議会での運行方法などに関する検討に対し、専門家派遣などによる支援を行いながら、真に地域に根差した生活交通の確保に向け、地域の皆様とともに取り組みを進めてまいりたい。

【佐々木】

市内でも、特に高齢化が進んでいる鶴ヶ谷地域や、中心部に近くとも道路が狭く大型バスが入らない小田原・清水沼地域など、地域住民のニーズにあった交通政策のあり方を展開すべきである。コミュニティバス導入のガイドラインなどを早急に整備する必要があると思うがどうか。

【小島博仁都市整備局長】

生活交通に対するニーズが高い地域において、住民の皆様とともに実情に合った運行形態等に関する検討を行いながら、持続可能な移動の足の確保に努めていく。さらに、国において現在審議されている交通基本法制定に関する動向や先進事例を踏まえつつ、ガイドラインの整備なども含め、支援方策を検討して参りたい。

その他、仮称「メモリアル時計」を整備について、母子感染による、いわゆる先天性トキソプラズマ症の予防について質問した。